

令和4年度第2回北杜市立図書館適正配置等検討委員会  
《会議録》

- 1 会議名：北杜市立図書館適正配置等検討委員会
- 2 開催日時：令和4年10月13日（木）午後2時～午後4時
- 3 開催場所：北杜市役所 北館3階 大会議室
- 4 出席者：【検討委員会委員】小林 是綱／日向 良和／板山 國夫／輿石 義彦／小池 雅美／  
内藤 英子／渡辺 新次

【事務局】 教育長 輿水 清司  
教育部参事 平井 ひろ江  
中央図書館長 田中 伸  
中央図書館総務担当 大塚 美智子／河野 明美

- 5 会議録署名：小林委員 内藤委員
- 6 公開・非公開の別：公開
- 7 傍聴：9名
- 8 会議内容

【第2回会議】（1）開会

- （2）委員長あいさつ
- （3）教育長あいさつ
- （4）審議

議題（1）前回会議の概要について（資料1）

議題（2）事前送付資料について（資料2-1, 2-2, 2-3, 2-4）

議題（3）市内地区内8利用者と地区外利用者の推移について（資料3）

議題（4）市内小学校・中学校・高校へのアンケート結果について（資料4）

議題（5）先進自治体の図書館について（資料5）

議題（6）次回の会議について

- （5）その他
- （6）閉会

9 会議経過

【第2回会議】

- （1）開会

- （2）委員長挨拶

先日、ライブラリーはくしゅうで開催されたウィキペディアタウンに参加した。図書館の資料を使い、地域について調べ、調べたことがすぐにウィキペディアに反映されるというイベントだが、有意義な時間を過ごすことが出来た。会場となったライブラリーはくしゅうは、とても小さな図書館だったが、絵本や児童書が充実していたと思う。そのことも含め、会議の中で生かしていきたい。

(3) 教育長挨拶

本日の議題は、前回の内容を受けて市内図書館の概要に加え、実際の利用状況、県内他市の状況や市内小中高校の利用状況等を共有してもらう中で、市内図書館の現状を知ってもらい、まずは本会議で共通の認識を持つことが出来れば良いと思っている。その上で今後ひとりでも多くの市民のみなさんが、ぜひ図書館に行ってみたい、図書館で聞いてみよう、調べてみようと思う図書館の魅力や図書館に求められるものは何かについて、検討していただければと思う。市民のニーズを掘り起こしながら、図書館の機能強化を図り、更にサービスの維持充実につとめながら、市民の交流の拠点等につながる、これからの図書館のあり方に向けて総合的な議論をお願いしたい。

事務局：設置要綱第6条の規定により、議長を委員長とする。

委員長：議事に入る前に、本日の会議の公開の可否について、諮る。

委員：異議なし。

委員長：異議がないため、要綱第3条に基づき、本日の会議は公開とする。

4. 審議

議長：傍聴人は、傍聴要領を遵守するようお願いしたい。会議録については、「北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱」第9条により会議の会議録を作成し、公表することとなっている。会議録には会議で指名する者、2名以上の署名が必要なため、今回は小林是綱委員と内藤英子委員を指名する。

議題（1）前回会議の概要について（資料1）

事務局：資料1により説明。

前回、「図書館の現状について」では、8館の概要、図書館活動の指標となる貸し出し冊数、館別延べ利用者数などをグラフ等により説明した。また、委員からは、「各館の建設年度」、「市の人口の15歳以下の子どもの推移」、「県内市の図書館の分析」、「市内8図書館の細かな分析」について追加資料の作成依頼があり、次回会議までに、委員に資料を届けるよう指示があった。また、「図書館をとりまく状況について」では、第3次北杜市総合計画、新・行政改革大綱の抜粋により、説明したほか、「今後のスケジュール」については、回数を重ねることも大切との意見が出された。説明は以上。

資料1については意見なし。

議題（2）事前送付資料について（資料2-1、2-2、2-3、2-4）

事務局：資料2-1により説明。

第1回目で配布した資料に前回の会議で指示があった各館の「施設竣工時期」を追記した。赤字箇所は、字句に誤りがあったため修正したもの。

※（誤）年末整理日⇒（正）月末整理日 説明は以上。

事務局：資料2-2により「北杜市の人口の推移について」説明。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、北杜市の総人口は、令和2年度に、4万4千53人だったものが、20年後の令和22年度には、3万3千696人にまでなり、実に1万357人減少すると推計されている。また、15歳未満の年少人口については、令和2年度の4,257人から20年後には、2,501人となり、実に1,756人減少すると推計されている。今後20年間の減少率を見ても、総人口で23.5%、年少人口については、41.3%の減と、0歳から14歳までの子どもの数が著しく減少することが予測されている。今後、グラフの最終年である令和27年（2045年）には、総人口、年少人口が、更に減少することが予測されるグラフとなっている。

事務局：資料2-3により「県内図書館（市）の状況について」説明。

1ページを説明。「総貸出冊数の推移」ですが、県内13市の図書館については、「山梨県図書館白書」の数字をもとに、平成28年度から令和2年度までの5年間の推移をグラフにしている。総貸出冊数は13市ともに概ね右肩下がりの傾向を示しており、令和2年度は、新型コロナによる開館日や開館時間などの利用制限により、落ち込みが大きくなっている。数値については右上の表のとおり。人口5万人未満の市についての貸出数については、資料の中央上の表のとおりで、北杜市の状況も示している。

2ページを説明。「資料費の予算額の推移」ですが、図書、新聞、雑誌、視聴覚資料などの資料費は、13市のうち、甲府市、甲斐市、南アルプス市など大部分の市が、過去5年間の予算額が横ばいまたは上昇傾向にある中、笛吹市と北杜市は目に見えて右肩下がりの状況。山梨県図書館白書によれば、北杜市の令和2年度の資料購入費は、県内13市中7番目、住民一人当たりで換算すると13市中8番目の状況です。

3ページを説明。「予約件数」の推移ですが、県内では甲斐市が最も高く、次いで北杜市という状況。コロナ禍の中で、図書館で予約受付のみの開館を行ったことで、利用者が予約に慣れてきたことも予約件数が増えている要因の一つだと考えている。

4ページを説明。「職員数」の推移ですが、市町村合併を行い、複数館の図書館を保有している自治体が多い状況となっている。北杜市においては、平成30年度に一時的に多くなっているが、日勤職員の退職などにより、運営上、短時間勤務職員を一時的に多く採用したことが要因です。

5ページを説明。「レファレンス件数」の推移ですが、県内13市ともに増加傾向にある。北杜市の状況を見ると、平成30年度まで右肩上がりだったものが、令和元年度から落ち込んでいく。令和元年度の落ち込みは、図書館総合管理システムの入れ替えで1週間全館休館になったことや、3月に新型コロナウイルスの感染予防対策で1カ月休館になったことなどが、減少要因の一つと考えられる。令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による休館が4月から7月末まで4カ月ほどあったことが主な要因とみている。

事務局：資料2-4により「市内8図書館の状況」について説明。

1ページを説明。「新規受け入れ図書冊数」ですが、全体として減少している。8館への新規図書の購入については、図書館の規模や図書収容能力などによって予算配分を行っており、館別

にみると金田一春彦図書館が多い状況となっている。

2ページを説明。「来館者数」ですが、平成28年度に入口に設置されたカウンターによる集計であり、金田一春彦記念図書館、たかね図書館、小淵沢図書館が多い状況。ながさか図書館については、図書館への入り口が数カ所あるため、カウンターの設置が出来ず、令和2年度にカウンターを設置した。したがって、それ以前の数字は推計値となっている。ながさか図書館の推計値の出し方は、カウンターが既に設置されている「7館のカウンターの人数」と「7館の延べ利用者数（7館で本を借りた延べ人数）」から割合を出し、算出した。

3ページを説明。「レファレンス件数」ですが、金田一春彦記念図書館、たかね図書館、小淵沢図書館などが高くなっている。ながさか図書館については、長坂コミュニティ・ステーションに、コワーキング・スペースの建設工事が入り、4カ月間長坂総合支所に移動し、予約貸出業務のみを行っている状況にあっても右肩あがりであるほか、ほぼ、すべての館で令和2年度より令和3年度を上回っている状況。

4ページを説明。「貸出冊数」。金田一春彦記念図書館が最も多く、その他の館も令和2年度に比べ、右肩上がりの状況。ながさか図書館については、レファレンス件数と同様にコワーキング・スペースの建設工事が影響しているが、ほぼ前年度なみの推移となっている。

5ページ、6ページを説明。「貸出冊数の年齢別内訳」ですが、「小学生以下」、「中学生・高校生」、「19歳から60歳までの社会人①」、「61歳以上の社会人②」の4つの分類に分けて、貸出冊数をグラフ化したもの。全体的に令和3年度に貸出冊数がコロナ禍前の状況に戻りつつある中、ながさか図書館については、コワーキング・スペース建設工場の影響がでている状況。個別に見ると母数の大小はあるが、19歳から60歳までの社会人①の利用が多いのは、明野図書間、すたま森の図書館、たかね図書館、ながさか図書館の4館、また、61歳以上の社会人②の利用者が多いのは、金田一春彦記念図書館、小淵沢図書館、ライブラリーはくしゅう、むかわ図書館の4館に分かれた。また中学生、高校生の利用については全体的に減少傾向にあることが見て取れる。

議長：説明の補足ですが、レファレンスサービスとは、利用者が知りたいことや聞きたいことを図書館員に聞き、図書館員が図書館の資料やインターネットの情報を利用して回答するサービスであり、それを1回1件として重ねた数がレファレンス件数です。

事務局より、北杜市図書館の現状、人口の推移、県内図書館の推移、サービスから見た各図書館の現状等の説明があったが、それに対して質問や意見があればお願いしたい。

委員：レファレンスについて、各図書館が全て同じ基準、または考え方で数えているのか、カウントにあたって規定はあるのか。北杜市職員全体の定義が決まっているのか確認したい。

事務局：レファレンスに関しては、非常に定義が難しいと思っている。北杜市図書館としては、深く調べた案件については市内職員同士で共有出来るよう、システムに記録している。本の問い合わせなどの簡易レファレンスは、紙ベースで記録する形でカウントしている。基準は今後必要だと思っているが、今のところ規程等はなく、職員による自主的な報告となっている。

委員：このことについて、職員間の研究会はあるか。

事務局：現在はないが、毎月1回各図書館の代表者が集まる運営会議の中で、今後統一していきたいと思っている。事務局としても今回資料を作成する際に課題に気付いたので、基準を作り、各館統一した統計がとれる形にしていきたく考える。

議長：引き続き、他の委員から質問、意見等はあるか。

委員：質問を2つお願いしたい。一つ目は、令和2年度と令和3年度を比較すると、全体的に令和2年度はコロナの影響を受けて落ち込み、令和3年度は回復している状況がある。このことについて、令和3年度に回復してきた理由として、コロナが落ち着いてきたという理由の他に、職員の努力や工夫があれば教えてほしい。二つ目としては、資料2-3の3ページの予約件数について、北杜市は人口5万人以下の市で予約件数が全国1位、2位となっているが、本市が多い理由はどこにあるのか。

事務局：一つ目の質問ですが、令和3年度については、休館中であっても貸出窓口を設置して予約貸出をしていたことが工夫をしたところだと考える。二つ目の質問については、市内には公用車を利用したメール便という配送システムがあり、そのメール便の運行によって、予約した本を最寄りの図書館で借りることが出来る。火曜日には、図書館独自にメール便の運行も行っている。遠くの図書館にある本でも予約をすれば、わざわざ遠くまで出向くことなく、近くの図書館で受け取ることが出来るということが市民に浸透してきており、予約件数の増加につながっているのではないかと考える。

委員：他の市にないようなメール便のシステムがあるということと、図書館同士の連携がうまく機能していて、他の図書館のものを手軽に借りられるようになっているという理解でいいか。

事務局：ご指摘のとおりで、資料2-3の3ページでは甲斐市も3館あり、予約件数が高い状況にあるが、同じようなシステムをとっている。予約した本がすぐに届くことが、予約率の増加につながっているのではないかと考える。また、コロナ禍で図書館の滞在時間の制限を設けていた時期もあり、滞在時間短縮のためにあらかじめ予約しておいて、借りたい本を取りに行くということも令和2年度の増加につながったのではないかと考える。

議長：他に質問、意見等はあるか。

委員：資料2-4の2ページで、金田一春彦記念図書館は、他の図書館と比較して令和3年度の来館者数が減っている。他の図書館は増えている。この要因は何か。今後の問題にもかなり関わってくると思うので、聞きたい。また、4ページの貸出冊数では、金田一春彦記念図書館は伸びている。利用者は減ったが貸出数は伸びているということは何か要因があると思うので、お聞かせ願いたい。

事務局：利用者は減ったが貸出冊数は伸びているということは、予約をして最寄りの図書館で借りることが出来るという仕組みが浸透しているという一つの事案だと思っている。要因の一つとしては、予約貸出の浸透が考えられる。

委員：私が考えるこれからの図書館は、非来館型図書館が重要だと思っている。つまり図書館に行かなくても資料が手に入るという仕組み。まさにこの表からそれが伺えることが有難い。

議長：他にあるか。

委員：学校図書館と公共図書館との関係について聞きたい。先ほどの説明の中で中高生の利用が少ないとの話があったが、連携を行っているのか。また、公共図書館で新聞をとっていると思うが、状況を聞きたい。

事務局：学校図書館との連携は、小中高の司書と中央図書館、各図書館の司書で連携会議を行っている。その中で情報交換をしながら、実際にどのようにすれば本や図書館に興味を持ってもらえるのか考えている。一つの例として「読書マラソン」を実施している。小中学生におすすめの本を

紹介し、スタンプラリーを実施する中で、本を読む動機づくりを行っている。また、図書館側からは、団体貸出等も行っている。新聞については、予算の中で平成28年に実施したアンケートを基に入れている。令和3年度は、明野2紙、すたま5紙、たかね5紙、ながさか7紙、金田一8紙、小淵沢4紙、はくしゅう3紙、むかわ2紙という状況です。

議長：よろしいか。学校図書館の方では、新聞を使った調べ学習をしているのか。

委員：学校図書館では、テーマを決めて調べる中で新聞もたくさん使っていると思う。

議長：調べ学習では山梨日日新聞しか山梨県内では集まってこないもので、他の新聞と比べることが出来ないことが悩み。公共図書館でたくさんあればと思うところですが。しかし、子どもが公共図書館に行くのはなかなか難しい。

委員：学校図書館と公共図書館の関係ということで付け加えます。私の学校は、ながさか図書館や地域の図書館と連携を密にしている。学校に来てブックトークをしてもらったり、小学校と中学校の交流授業でブックトークをする際には、子どもたちが本を選ぶときにお世話になっている。また、連携事業としてビブリオバトルや家読POP作りも行っている。先日も司書の方々にPOPの審査もしていただいた。学校図書館に所蔵がない本も、すぐに届けてくれるので有難い。もちろん学校の事情によって違うとは思いますが、地域の図書館と学校図書館は、読書教育という面においてはどこの学校も非常によく連携しているのではないかと思います。北杜市の小中学生の読書量は、全体的に非常に多いと感じる。読書に対してかなり普及しているのは、司書の方々のお陰だと思っている。

議長：ブックトークとは、本の紹介をする活動のことです。学校教育の中では、本の読み取りと自分の中での解釈と、更に相手に伝えるように説明するという教育効果が見込める活動となっている。また、ビブリオバトルは、ブックトークを競わせる活動のこと。観客の前で一人ひとりがブックトークをして、一番読みたい本に手を挙げてもらい、一番多かった人が優勝者となり、全国的に行われている。委員のみなさんの中で何かあるか。

ないようですので、委員長の方から感想を述べさせてもらおうと、まず図書館の現状について、床面積が400㎡以下の図書館は、かなりサービスを一つの図書館で完結することが難しいという印象がある。つまり狭すぎて様々な活動をする場所がないとか、本を借りに来ても置いておく場所がないので、よそからの取り寄せになるということが起こる。北杜市の図書館の床面積見ると、多くの図書館が400㎡以下。それに関して先程の説明にもあったように、予約をして自分の近くのアクセスポイントで受け取るという活動がかなり普及しているということがある。もともとの図書館のインフラ自体は良くないが、そのような活動で今北杜市の貸出数や予約数は多くなっている。人口比で全国でも上位にきているということは、図書館は狭くてもすぐ受け取れるという体制が整えられているということが今の説明を聞いての見解。また、学校図書館との連携が重要で、将来の読書人口を増やすとか、これから社会に出ていく子どもたちが、あらゆる情報の中から自分が必要とする情報を見極める能力を作るためにも、学校教育の中で本やインターネットでの情報を見極める力が重要になってきているが、そのような活動が地元の図書館との連携で行われているという話から、学校図書館と公共図書館との連携が整っていることが拝察できた。現状の認識と感想は以上です。

他に何かあるか。

委員：今までの説明を聞く中で、今後の考え方のヒントとなるのは、メール便だと思う。メール便を

いかにどのように走らせるかによって、これからの適正化が考えられると思うので、メール便の資料の動き方を分析する必要があると感じる。

議長：他にあるか。ないようなので、次に資料3について説明をお願いしたい。

### 議題（3）市内地区内利用者と地区外利用者の推移について（資料3）

事務局：資料3より「市内地区内利用者と地区外利用者の推移について」説明。

この資料については、現在8館ある図書館について、それぞれこの地区の人達が利用しているのかを過去5年間にわたって示したものを。

1 ページを説明。「明野図書館」ですが、黄色く色塗りした囲みが明野図書館を示しており、その他の囲みは、明野地区以外の市内地域、県内、県外からの利用者の推移を示している。この資料から読み取れることは、明野図書館の利用者は地元の利用者が大部分であること。人数としては少ないが、次いで高根地区、県内他市町村からの利用者の順になっている。また令和3年度は、住民基本台帳における明野地区の住民の5%が利用し、明野地区以外の市民の利用は0.28%に留まっている状況。

2 ページを説明。「すたま森の図書館」ですが、地元の利用者が最も多い中、高根地区や明野地区からの利用者も多い状況。右下の棒グラフにも表れているが、地元の須玉地区の利用者よりも、他の7地区の利用者の方が多いということが見て取れる状況。

3 ページを説明。「たかね図書館」ですが、地元の利用者が最も多く、次いで長坂地区、大泉地区からの利用者なども多くなっている。特に令和3年度の長坂地区からの利用者が多いのは、長坂コミュニティ・ステーションで、コワーキング・スペースの工事を4カ月間行い、休館状態であったことから、ながさか図書館の利用者がたかね図書館に流れていると考えられる。

4 ページを説明。「ながさか図書館」ですが、利用者は地元の利用者が多く、次いで高根地区からの利用者が多い状況。また、ながさか図書館の特徴として、右下の棒グラフにも表れているが、地元の長坂地区よりも、他の7地区の利用者の方が多いという特徴がある。

5 ページを説明。「金田一春彦記念図書館」ですが、地元の利用者が最も多く、次いで、県外からの利用者、長坂地区、高根地区の順となっており、八ヶ岳南麓の別荘地から一番近い図書館であることや、金田一春彦先生の名前の影響も利用者割合に影響していると考えられる。

6 ページを説明。「小淵沢図書館」ですが、地元の利用者が大部分を占めており、県外からの利用者が市内図書館の中で、2番目に多い図書館となっている。なお、こちらも令和3年度に長坂地区、大泉地区からの利用者が増加しているが、長坂地区からの利用者の増加は、長坂コミュニティ・ステーションの工事による影響が出ているものと考えられる。

7 ページを説明。「ライブラリーはくしゅう」ですが、白州地区の人の利用が最も多く、次いで長坂地区の利用者が多くなっている。

8 ページを説明。「むかわ図書館」ですが、地元の利用者が大部分を占めているが、武川地区以外の利用者が100人ほど上回っている状況がみて取れる。

9 ページを説明。まとめですが、すたま森の図書館、ながさか図書館、金田一春彦記念図書館、むかわ図書館の4図書館は5年間の推移として、地元の利用者よりも、他の地区からの利用者多くなっている状況。反対に、明野図書館、たかね図書館、小淵沢図書館、ライブラリーはくしゅうの4館は、地元の利用者が多いことが見て取れる。

最後に、資料の修正をお願いしたい。資料3の6ページの一行目で、「小淵沢地区の利用者が大部分の後に、「次いで、県外からの利用者」と加筆し修正をお願いしたい。

議長：資料3の説明に対して意見、質問はあるか。

委員：すばらしい分析だと思う。先程図書館の面積400㎡～500㎡というところで図書館の在り様の説明があったが、私は700㎡～1000㎡位の図書館は一応図書館らしさを保つということがこの数字でよく分析できていると思う。人数ではなく比率で、当該地区の利用が少なく、当該地区以外の利用者が多いということは、その図書館に魅力を感じているからということになる。反対に当該地区の利用者が多く、当該地区以外の利用が少ない図書館は、当該以外の方は魅力を感じないから来ないということが、パーセンテージで如実に表れている気がする。よってこの資料は今後の検討会に参考資料として有効だと感じる。

議長：他にどうか。簡単な質問だが、移動については自動車での移動が多いのか。自動車以外では、コミュニティーバスで移動しているという認識で良いか。

事務局：移動手段についての調査はしていないが、小中高校生については親の車が多いと思う。大人については、自動車が多いと思われる。市内には、幹線である定時定路線バスとデマンドバスが走っているので、それを利用している人もいると思われる。

委員：移動手段に関しては、生涯学習意識調査というアンケートを令和3年に取った。その中で、北杜市は高齢者が多いが、移動のことも記載があった。図書館が3館になってしまうとますます遠くなり、交流する場所がなくなってしまうので困るという意見が多くあった。もう一点、「生涯学習はどこで行うのか」という設問には、公民館、図書館という記述が多かった。移動手段は大事ではないか。生涯学習は、いつでも、どこでも、だれでもが大事だと言われているが、どこでという場所がなくなってしまうこと、更に高齢者になると移動手段がなくなってしまうのは困るという意見もあった。

議長：先程言ったように、近くで本が受け取れるメール便の活用は、一つのアイデアだと思う。お金は少しかかりますが、本を宅配するという考え方もあるが、イベントスペースは逆にもっと近くにないかと困る。この時勢で公共交通を整備することは難しいので、サービスの側が自宅の近くに寄っていくという考え方をしていくのが妥当かと思う。拠点からの距離の問題をぜひ検討の中の題材にして欲しい。

委員：只今の委員の意見は、最も大事な観点だと思う。図書館とはどうあるべきかという議論の中で、生涯学習という話があった。今また岸田総理は「学び直し」という言葉を言い出している。学び直しとは現在の経済活動や社会活動を従来の観点ではなく、新しい形の学びを取り込んだ学び直し。その施設がとても重要となってくる。その中でメール便の話が出ているが、自分の方から図書館に行くのではなく、図書館が自宅に来るような学び直しができる社会を作らなければならないと思う。交通手段がない人がどんな仕組みで自宅に居ながら学び直しができるか、あるいは地域の小さなサロンで学び直しができるか、それらを今回の北杜市の問題の中で考えていくことだと感じた。

議長：他に何か。ないようなので、次に資料4について説明をお願いしたい。

議題（4）市内小学校・中学校・高校へのアンケート結果について（資料4）

事務局：資料4より「市内小学校・中学校・高校へのアンケート結果について」説明。

これは、市内の小学校、中学校、高校校へのアンケート結果についてまとめたもので、第3次北杜市子ども読書活動推進計画の中で、令和2年度に実施したもので、

1 ページを説明。市内高校の結果ですが、「市の図書館をどれくらい利用するか」については、グラフのとおり、「ほとんど行かない」が、H29年度に約6割だったものが、R2年度には約8割に達している。これは、コロナ禍を反映している状況。「市の図書館に行く方法」はH29年度に比べ、自転車で行くが微増、親などの車で行くが増加している状況。移動手段についても新型コロナの影響が出ている。「どんな図書館に行ってみたいか」は、「本がたくさんある」が僅かに減少し、「親や友達と気軽に行ける」が僅かに増加している状況。「その他」については、「学習室がある」が最も多く、「静かでリラックスできる場所がある」が多くなっている状況。

2 ページを説明。中学校の結果ですが、「市の図書館をどれくらい利用するか」については、高校生と同様にコロナ禍による影響で「ほとんど行かない」が、H29年度に約5割だったものが、約7割近くまで達している。「市の図書館に行く方法」はH29年度と令和2年度を比べると、親などの車で行くが僅かに増加している状況。「どんな図書館に行ってみたいか」は、「本がたくさんある」と「親や友達と気軽に行ける」が僅かに増加している状況。「その他」については、「マンガがたくさんある」が44名と最も多く、次いで「学習室がある」が26名となっている。

3 ページを説明。小学校の結果ですが、「市の図書館をどれくらい利用するか」については、「ほとんど行かない」が、H29年度に約4割だったものが、令和2年度は約5割にまで達している。「市の図書館に行く方法」は、H29年度と令和2年度を比べ、親などの車で行くが7割近くまで増加している状況。「どんな図書館に行ってみたいか」は、「親や友達と気軽に行ける」が増加している。「その他」については、「新しい本がたくさんある」「マンガがたくさんある」などが増加している状況。

4 ページは、委員長による分析のため、委員長より説明。

高校生以上での読書量の減少があるが、これは全国的な動向で学校読書調査などでは、高校生になると部活動や塾等があり、本を読む時間が生活時間の中で取れないことから、そもそも図書館に行かない生徒が多いということになる。

高校生が図書館で何をしているのかの調査が必要だが、ニーズとしては学習室として使うことが多い。これも全国的なもの。山梨県立図書館をつくる際、学習室をつくるかどうか迷ったが作った。山梨県内には中高生が自宅以外で学習する場所が少ないということから、山梨県立図書館ではあえて学習室を作った。そういう場所になっていることが見て取れる。

各地で読書推進計画を策定しているが、中高生にマンガ以外の本を読んでもらうことが市町村レベルで課題になっている。中高生への不読率（1か月に1冊も本を読まない生徒の割合）を減らすことが盛り込まれている。墨田区では、1か月に1冊も本を読まない生徒の割合を5割から半減させることを目標に掲げ、図書館の資料を多様化させるということで、読書の入り口になるような映画の原作、ドラマの原作本を置いたりする活動をしている。ビブリオバトル等の活動も行っている。

高校生になると、インターネットの動画視聴が多くなることから、それを通して読書や本の紹介をしていく。そういう活動を高校生にしてもらうことが必要ではないかと考えた。

学校の探求学習などと連携してテーマ設定などを行い、公共図書館の資料を利用することで、本を手にする生徒が増えてくるのではないかと考える。

以上は全国的な傾向だが、北杜市の地域的な傾向があれば教えてほしい。

議長：説明は以上。委員から何かあるか。

委員：コロナ禍の中でのアンケートということだが、今の小中高校生の現状がよく表れていると思う。市内図書館はたくさんあるが、小中高校生の利用率が上がらない原因として、親などの車以外に交通手段がなく、行きにくい状況があると思う。交通手段の問題が解決すれば、行きやすくなるのではないかと。将来のことを考えたとき、図書館に行かなくても利用できるような体制、インターネットやオンラインなどが今後増えてくることが予想されるので、そういうものと今後の図書館の連携が大きなテーマになるのではないかと考える。

委員：1日24時間をどう使うかが、重要な生き方の問題。その中で若者たちが1日24時間をどう使っていくのかという分析が必要。更にその中で図書館がどのような位置づけにあるのかという分析が必要だと思う。インターネット等の様々な情報媒体が世の中に蔓延している中で、子どもに本を読ませたいという思いは最も大切なことではあるが、どのようにして本を読ませせるのか。その場所は図書館か、家庭か、学校か、両親か、友だちか。様々な媒体の中で読書意欲を掻き立てる仕組みが必要になってくると思う。つまり、1日24時間の中で、どのように子どもたちに読書活動の時間を与えられるのかということが、今大人社会に突き付けられた課題のような気がする。その中で北杜市が一丸となって、若者たちに読書の大切さや有難さを具体例をもって示していくことも図書館の活動だと思う。1日24時間しかない子どもたちに、どのように読書活動を作ってあげられるかという協議、そしてその仕組みをこの検討委員会の中で考えていくことが、場所を少なくするなどの問題以上に重要なことだと思う。最後に、このデータをよくここまで調べてくれた。中央図書館のみなさんに感謝する。これだけの基礎データがあれば、これからの議論がかなり進んでいくことと思う。

委員：図書館を利用する年齢によって読みたい本や利用したい本はそれぞれ違うと思う。今現在図書館は8つあるが、全ての図書館に同じような本が置かれているのが現状。同じものがいくつもあるというよりも、特色のある図書館が出来ていけば良いのではないかと意見がボランティアの方々の中にもあった。ボランティアも一つの図書館にいろいろな形の図書館ボランティアが集まってもいいのではないかと考える。高齢者の利用も含め、図書館についての議論をすすめていく中でも、移動手段は大切だと思う。

議長：電子図書館の導入が全国ですすんでいる。現在は本の数が少ないので、実際の図書館の代わりになるかと言えばそうではない。しかしこれからは、中高生であればインターネットで借りることができるので、電子図書館では要望の多いライトノベルやマンガを中心に用意して、実際の図書館では調べ学習や何人かで集まって利用するような本を用意しておくという棲み分けは十分にできていると考えている。また高齢の方も現在60代の方々が70代、80代となっていくときにはインターネットを利用している方も多いと予想されることから、移動する必要もなく、利用時間も問わない電子図書館も将来的にも検討すべきと考える。

委員：とてもわかりやすい小中高生のアンケート結果だが、この結果から見えてくることは、子どもたちは移動手段がないので連れていってもらえない。近くにあっても歩いて行ける子は限

られているということ。図書館はたくさんあるが、車で行かなくては行けない子はたくさんいると思う。

しかし、図書館に行くための移動手段をどうするかという問題は、市自体が広いので難しいと感じる。中高生になると、ネットで予約して借りるということは容易にできると思うが、それ以外にも勉強する場所が必要だと思う。それが図書館でなくても、行ける場所に学習が静かにできる場所があることは必要。県立図書館は、電車で行くことができるので好立地だと思います。そういう点から見ると、ながさか図書館は駅が近くにあり勉強をしながら電車を待つことができ、有難いと思っている。現在、北杜市には中高生の居場所がないという現状もある。図書館は、学習の場所や居場所的な役割を背負っていると思う。市の校長会で、小学生の子どもたちの放課後の居場所として学校の近くの図書館を利用しているという話を聞いた。また、校長会の意見として、低学年の子どもたちが近くの図書館で高学年の兄弟の下校を待っていることができると有難いというというものもあった。近くの図書館がそういう場所になりうるならば、保護者も安心して学校職員の負担軽減にも繋がるのではないかという意見もある。いずれにしても本のことだけではなく、子どもたちの居場所という意味合いも考えていくことなのではないかと思う。

議長：居場所作りは重要なポイントで、子どもだけではなく大人の居場所作りも重要。子どもと大人は別々の部屋でなくてはいけないということもある。次の議題にも関わっていくが、これから先の図書館、次の北杜市に必要な施設や機能を考える上でも居場所作りという目的は非常に重要になってくる。

委員：先程の読書活動という話に関連して、北杜市の中学校9校の中で朝読書はどれくらい実施しているか。

委員：全校実施していると思う。

委員：もう一つアンケート結果から、学習室が必要だと感じた。以前、市で長坂環境改善センターに中高生の居場所を作ったが、コロナで無くなったという現状がある。そういった居場所作りは大事だと思う。

議長：アンケート結果は非常に重要。これからの議論の中で活用して行ってほしい。以上。

#### 議題（5）先進自治体の図書館について（資料5）

委員長：先進自治体の図書館について

委員長：1ページ～2ページの「大和市文化創造拠点シリウス」ですが、名称自体が図書館ではない。大和市の様々な年代の人々が集まり、そこで文化を創っていく場所として図書館だけではなく様々な活動ができる場所となっている。生涯学習センターとして作り、その中に図書館の機能があるという施設。

3ページ～4ページの「ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス」ですが、情報創造館という形で、建物全体が市民生活を支援するというコンセプトになっている。フロアの一部に図書館が入っているという考え。市民活動のために資料や情報が必要ということで、図書館部分は建物の半分以下となっている。地下2階はヤングアダルトフロアとなっており、高校生以下が利用できる。スタジオや卓球台もあり、子どもたちが使い方等を決めていく場所。

5ページ～6ページの「官民複合施設オガール 紫波町図書館」ですが、小さな町の図書館で、

図書館の隣に物が買える場所がある。図書館もあるが、エリアの中で来た人に情報を提供するという機能のみを果たす場所。

以上、共通するところとしては、2015年以降は、図書館単体で作られなくなっているということ。名前は図書館でも、中の機能は住民や市民の様々な活動や体験の場所として作る図書館が増えてきている。カフェが併設されていたり、もの作りの場所がある。人や地域の役に立つ、使える図書館となっている。単に読書だけを提供するだけではなく、読書をして考えたり、感じたことに対して次のステップをその建物の中で行う場所になってきている。更に子どもから大人まで、学習するスペースを必ず確保しており、市民サークルが活動するスペースも用意している。これらを満たす場所としては、多目的な場所が重要になってくる。これから検討委員会では、図書館について考えていくことはもちろんだが、その他にも歩いて行ける地域の施設や建物で何を提供すべきか、例えば図書館という名前が変わったとしても、その場所でどのようなことが行えるかを考えていくという委員会だと考える。

注意してほしいことは、それを考えるのは住民の方々だということ。その地域に住んでいる方が近くにある建物をどのように活用していくかということは、この場で考えるよりも住民の方に考えてもらう。それを自治体が支援するという形が現状として多いことから、資料5は、参考資料として見てほしい。委員長からの説明は以上。

委員：次回の議論になると思うが、北杜市の図書館はこれからどうあるべきかという議論をしながら、適正配置等を考えていくという所に持っていかせてもらえると参加する意義があると思う。傍聴の方々の期待に応えるためにもそのような形にすればいいと思う。その中で図書館を分析すると、幅が広がってきてしまった。最初の図書館は読書をする場所だったが、サロンや学習室、居場所といったものが付加されてきている。次回の委員会では、北杜市の図書館はこんなふうな図書館がいいのではないのかという所にもっていかせてもらえると有難い。

議長：本日たくさんの情報をいただいているので、委員の皆さんで検討したり、武蔵野プレイスなど、行きやすい図書館を見学してみるのも良い。身近な図書館では、山梨県立図書館は、図書館というより建物全体の活動として国内外から注目されている。県立図書館の新しい役割として学習室やイベントスペースなどを完備し、駅前にあるという立地を生かして県民に対して読書+αで様々なことを提供していることで非常に注目されていることを確認してほしい。他に何かあるか。

委員：資料5は、参考とはいえ今後の北杜市のことを考えていく上で、非常に大きな指針となる。図書館という名称ではなく様々な名称があるが、読書以外の多機能や多目的なスペースが必要。北杜市には施設はたくさんあるが、それぞれ散らばっているような感もあるので、そのようなものの各地域の集約もできるといいと思いながら今日の説明や議論を聞かせてもらった。

議長：他にあるか。

委員：図書館はどうあるべきかが大切。ビジョンを持って北杜市図書館をどのような図書館にしていきたいかということを掲げていくことが大切だと思う。

議長：繰り返しになるが、それは北杜市に住んでいる方々が、自分の近くにある建物をどのように使っていくのか、それを使う人たちが考えていくことが重要で、自治体が使い方を示すような時代は過ぎているという所は再度確認いただきたい。この部分が次の議論に繋がる所になるので、ぜひ資料を読んでいただきたい。この他にも図書館の成功事例があるので、事例については適

宜知らせていきたい。本日用意した資料は以上。次回の会議について事務局よりお願いしたい。

#### 議題（6）次回の会議について

事務局：今回の進行状況から、再度委員長と協議し、日程等も含め再度知らせる。

議 長：次回について、事務局と早く相談しながら設定したい。その際にはぜひ協力をお願いしたい。

#### 5 その他

議 長：その他について何かあるか。

委員、事務局ともになし。

#### 6 閉会